体験活動ウィーク推進モデル地域事業

大柿町

1　実践の視点

・海岸に生息する生物の生活の様子等を観察させ，児童が身近な自然環境に関心をもち，自然を保護し，郷土を大切にする気持ちを育てたい。
・本町の小学校５年生全員（町内４小学校）が自然観察を通じて，各小学校の枠を越えて学びあい，交流しあうことで，小規模校では経験しづらい，多人数での学習を経験させる。
・５年生という特定の学年で体験活動をさせることにより，低学年の児童は「観察会」に期待し，卒業してからも「観察会」を振り返ることのできる，そんな地元の自然を意識する「ポイント」づくりになればと考える。

2　実践内容

本町では，海辺の生き物に関心がある町民が集まり，「海辺の生き物調査団」を結成し，観察会・調査会・研修会・広報等を行っている。この「海辺の生き物調査団」などの支援により，小学校５年生全員を対象に海岸に生息する生物の生活を観察させたり，海辺の生き物に関する講演会などを行った。各学校から担当の教員が事前に企画会議を開き，年２回から３回程度，テーマを変えて行った。

（内容）
・「海辺の生き物」に関して調査・研究を行っている中学生や教員，「海辺の生き物」に詳しい地域の方を講師に招き，講演会を開く。

・地元の海岸に出かけ，海辺の生き物を題材としたオリエンテーリング「マリンアドベンチャー」を行う。また，ハクセンシオマネキの生息数が県内でも１，２を争う干潟で，「カニのダンス（ウェービング）」の観察を行った。

カニの観察

マリンアドベンチャー

・自分達で採集した貝殻や海藻を使って貝標本や海藻はがきを作成したり，スケッチを描かせた。

3　成　果

・自然体験を通じて，直接見て触れてながら，生き物の名前・特徴を知ることによって，以前に比べて海が身近なものとして感じられるようになり，児童たちの地域の自然に対する関心も深まってきている。
・各学校にそれぞれ水槽が設置されるようになり，日頃から身近な海の生き物に接することが出来るようになってきた。
・児童たちの海辺の生き物調査団への参加も増え，学校と調査団が連携して調査会・研修会を開くようになった。